第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと併せてご活用ください。

～各調査機関の経済見通しから、予想のコンセンサス、相違点を分析します。

2012/5/24 「民間調査機関の経済見通し（2012 年５月） ～ゲタの高まりから 12 年度は上方修正。しかし 12 年度後半の景気に対する懸念が高まる～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～再び世界の金融市場に波紋を投げかける欧州財政問題。マネーをめぐる動きを解説します。

2012/5/28 「原油価格コントロールを再び狙うＧ８ ～年後半市場安定化の切り札となれるのか～」

2012/5/24 「煮詰まる欧州財政問題と為替相場への影響 ～ドル＆円＞ユーロの力関係が明確化しよう～」

掲載カテゴリ：嶌峰義清の「マーケットウォッチング」

～日銀の政策手段に関心が集まるなか、その理論的背景、起業が雇用を生むプロセスを解説します。

2012/5/17 「貨幣数量説の限界を再検討する ～なぜ物価コントロールが効かないのか～」

2012/5/11 「成長戦略としての起業家支援 ～75 万人の雇用創出ポテンシャルを活かせ～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～世界経済の波乱の極である欧州情勢、成長の極であるアジア経済ほかについて分析します。

2012/5/21 「ギリシャのユーロ離脱の行方 ～運命の決断の日まで残すところ１ヶ月～」

2012/5/22 「タイ、予想外の速さでＶ字回復を達成 ～景気刺激策の効果もあり、１－３月期は年率 50%超の成長に～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、西濵徹の「アジア・新興諸国経済」

編集後記

今月号に掲載の日本経済見通しでは、足もとの公共投資、個人消費が堅調なことなどにより、2012 年度の実質ＧＤＰ成長率見通しを前回予想から上方修正している。今年度前半は比較的高い経済成長率が続くが、後半には政策による下支え要因が次第になくなることから、景気の減速が見込まれている。

2001 年度以降で平均成長率が高いのは４-６月期だ。リーマンショックで大幅なマイナス成長を記録した四半期が含まれるので、公平な比較にはならない。だが 2007 年度以前も４-６月の成長率は比較的高い。試みに米国をみると、４-６月が高く、逆に１-３月が低い傾向が読み取れる。連想の域を出ないが、米国の株式相場には「五月に売ってどこかへ行け」という格言や、九月は株価が冴えないという経験則がある。金融市場の連鎖が世界の景気の波を同調させる可能性はあながち否定できない。このところ金融ショックは年後半に世界に広がり、翌年始めに不安がピークに達することが何度かあったように思う。さて今年度は。（H. U）